

4 . GISTの治療方法 ~ 悪性とは ~

4-4 . 予 後

POINT

GISTの予後はリスク群により異なるが、一般に30～40%程度が悪性の経過をたどりうると考えてよい。

初発GISTの予後は欧米と本邦ではやや異なる。すなわち、癌検診の際、偶然発見されるGISTの少なくない本邦のGISTの予後は相対的に欧米(症状所見が現れるまで発見されることがない)に比し良好であるが、全GISTの30～40%程度が悪性の経過をたどる。外科手術時に比較的大きな腫瘍の多い欧米では40～50%近くが悪性の経過をたどり再発ないしは腫瘍死を起こしうる。同様に胃のGISTは小腸のGISTに比し検診で発見される率が高く、腫瘍径も相対的に小さい。このため、胃のGISTの予後は小腸のGISTの予後より良好とされる。

再発までの期間は半年から2年までの間が多いが、稀に手術後10年近くでの再発もある。イマチニブの登場以前は再発後の平均生存期間は18～20ヵ月、転移再発GISTの平均生存期間は約1～3年であった。肝転移単独で肝切除(相対治癒切除)を行った場合の平均生存期間は約3年、腹膜播種を伴った場合の予後は、腹膜播種の切除を行った場合でも平均生存期間15ヵ月である。

イマチニブ登場以後のGISTの予後

イマチニブの第 相試験は再発進行GISTに対して行われたが、現在までのところその中間報告があるのみで最終結果には至っていない。中間集計では、平均24週の投与でイマチニブ投与症例の生存あるいは進行の予後は中央値に至らず、予想1年生存率は約90%である(イマチニブ登場以前の再発進行GISTの再発ないし進行発見以後の生存期間中央値は32ヵ月で、予想1年生存率は約75%である)。

用語解説**生存率(survival rate)**

一定期間経過した症例群のうち、その時点で生存している患者の率。治療成績判定に用いられ、癌治療においては5年生存率はその指標として用いられることが多い。

用語解説**生存期間中央値(median survival time ; MST)**

生存曲線上、50%生存に相当する期間。全生存期間の場合、通常ドロップアウト例も含まれること、分布が正規分布ではなく右にすそをひくことなどから、治療成績判定には平均値より中央値の方がよりよい指標として用いられる。